

区西北部 課題の整理

医療資源

☛ 中小病院が多い / ☛ 全機能流出型だが比較的自圏域完結型 / ☛ 地域間連携(区西部)

<p>地域の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高度急性期から慢性期機能まで全ての機能で流出 ○ 全ての機能において都内隣接区域も含めた完結率は高い ○ 他の病院等からの転院の割合が高い ○ 中小病院割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 回復期リハ病床は都内構想区域で最も多い ○ 回復期機能において病床稼働率が低い ○ 回復期機能において死亡退院割合が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括ケア病床は増えつつあるが、不足しているとの声 ○ 急変時やレスパイトの受入れを求める声 ○ 慢性期機能において埼玉県への流出が多い
<p>論点</p>	<p>今ある医療資源を最大限活用させるための方策</p>	<p>回復期機能病床のさらなる有効活用について</p>	<p>地域包括ケアシステムの構築に向けた、高齢化する地域住民の医療体制について</p>
<p>調整会議での意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能を整備すれば需要も増える。救急においても循環器を強化すれば救命率が上がる。まだ急性期は充実すべきである。 ・ 高度急性期・急性期は流出しているが、それも三次救急やがんなどで流出の理由は異なってくる。三次救急は一部の区に集中しており、圏域内全てカバーできないことから、流出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急の受入れに苦勞することがあり、後方病床の不足感は否めない。回復期機能の病床を増やして欲しい。 ・ 回復期の病床稼働率は低いとなっているが、圏域内でも地域によっては不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均在院日数の関係で、高度急性期・急性期から回復期・慢性期・在宅へ移さないといけませんが、行き場がない。 ・ 救急受入れで苦勞することもあり、後方病院が足りないと感じる。地域としてもまだ整備が必要。 ・ 地域の患者について、圏域における急性期から慢性期の連携で、看取りまで含めて考えられるシステムが大事。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療といっても、住民が十分に理解しているのかという点もある。大学病院やブランド病院に一次から行ってしまいう患者もおり、住民に対する地域病院についての啓発も必要。 ・ 各病院で集まる機会があると、お互いの立ち位置が分かって参考になる。各区ごとにやらないと実情は分かりづらいので、区単位での部会等を行ってからこの会議に臨んだ方が有効なものになるのでは。 			

- ☛ 限りある圏域内の医療資源を有効に活用していくため、圏域内の連携を強化する取組が必要
- ☛ 地域包括ケアを支える病床を効率的・効果的に活用していくための方策